

事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	湖畔若宮地区整備事業			コード	132201	
2 担当部課	部等	建設水道部	課等	都市計画課	作成者	真田 健
3 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち			
		政策	計画的土地利用の推進	施策	まちの活力を高める市街地整備	
		予算科目	都市整備事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	

●事業の実施内容（D0）

4 事業の概要等	* 対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	地区環境の保全と計画的な基盤整備を誘導し安全で良好な住環境の形成を図るため、湖畔若宮地区地区計画に基づいた事業を実施する。		
目的	対象者	湖畔若宮地区住民	
	意図	都市基盤整備を促進し、良好な住環境を誘発する。	

5 事業の必要性	* 事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由		
本地区は緑豊かな憩いとやすらぎのある周辺環境に恵まれた市街地であるものの都市基盤が未整備のため道路幅員が狭く、安全確保や緊急車両の円滑な通行が困難である。このため、本地区の特性に合わせた地区計画による住環境の整備が必要である。			

6 事業の全体計画	* 各年度の取組計画		
予定全体事業費	円	事業期間	
27年度まで	地元地区と協議を重ね、地区計画に基づく道路整備の同意を得て、整備に着手した。		
28年度	前年度までに同意を得た道路について整備を継続する中、完成した。		
29年度	地元権利者との協議を行い、他路線の整備促進を図る。		
30年度以降	"		

7 事業の実施内容	* 各年度の進捗状況		
27年度まで	塚間横河線、区画道路790号線、市道岡谷114号線の整備と継続的に実施してきた都市計画道路田中線が完成した。		
28年度	市道岡谷113号線の整備を行うとともに、地元の要望などをお聞きする中、基盤整備等の可能性について協議を行った。		
29年度	地元の要望などをお聞きする中、基盤整備等の可能性について協議を行った。		
前年度の課題への対応	地権者との継続的な話し合いを行いながら、地区内の基盤整備に努めた。		

8 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度まで(累計)	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	22,685,056	154,728	145,219	163,000
経常経費	0	0	0	
臨時的経費	22,685,056	154,728	145,219	163,000
* 臨時的経費の説明				
② 人件費		6,400,000	4,400,000	4,400,000
正規職員の人数(人)		0.80	0.55	0.55
③ 合計コスト(①+②)	22,685,056	6,554,728	4,545,219	4,563,000
前年度比			69.3%	100.4%
財源				
一般財源	7,785,056	6,554,728	4,545,219	4,563,000
内訳				
特定財源	14,900,000	0		
* 特定財源の説明	道路整備事業債			

●事業の評価 (CHECK)

9 事業の進捗状況

区分	27年度まで(累計)	28年度	29年度	30年度(予算)
進捗率				
直接事業費の執行率				
その他の進捗率	14.1%	100.0%	100.0%	
* その他の進捗率の説明	地区計画による道路築造工事等の進捗率(変動)			

事業をとりまく環境変化	今まで	(これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと) 区画整理事業に替わり、地区住民等が主体となって実施する「地区計画」として環境整備を推進することとなった。これにより、地区住民の了解が得られた路線から、道路整備を着手した。
	今後	(29年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること) 地区内の権利者に「地区計画」が浸透していないため、市民と行政が協働で取り組むことを目的とした、まちづくり調査隊(岡谷市全体のまちづくり)などにより、意見集約を行う。

●改善の内容 (ACTION)

10 今後の課題と対応策

今後の課題	(環境変化を考慮して事業を進めていく上で、29年度以降に課題になること) 地区内の道路整備は地権者等の了解と協力が必要となるとともに、道路新設等の予算確保も必要となり、相当期間を要するため、路線ごとの計画が次世代へ継承されていく必要がある。
課題への対応策	(上記の課題をふまえて29年度に実施する、具体的な対応方法) ・路線ごとに機会をみながら、懇談会等により整備の計画を周知する。 ・中長期的な道路整備を考える中、土木課との協議を行い、予算確保を図る。

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---